

## 地熱開発の問題点

# 温泉 クライシス

短期集中連載

&lt;4&gt;

私どもの宿「中の湯温泉旅館」(長野県松本市)は中部山岳国立公園内の第2種特別保護地域に位置している。谷の奥は第1種特別保護地域で「特別名勝」「特別天然記念物」である上高地、裏山は焼岳、梓川沿いに沢渡、坂巻、中の湯と温泉地が点在しており、19995年には焼岳火山南東麓で

中の湯温泉旅館代表取締役

## 小林 清二氏

水蒸気爆発があった場所である。

国は公約で2030年

までに電力供給シエアにおける再生可能エネルギーの割合を20%台にする計画を打ち出した。2012年3月の法改正では規制の緩和を行い、国立公園内でも3千キロワットのものなら地熱開発を

ず、上高地町会として対応した。

しかし、各地の地熱開

発で温泉の枯渇、環境保全、自然景観の維持などさまざまな問題が起きており、成功事例が非常に少ないことや当地区の住民から安全面での懸念があることをS社に伝え

回復作業の「明文化」を条件とし、不賛成ながらも調査に同意した。

2015年5月から、

当地区で地磁気電流法電磁探査(MT法)、重力探査、地下学調査、環境調査などが行われたが、当地区は地熱資源から3キロも離れており、採算面で「事業性に乏しい」と

では心配な点も多い。

焼岳北麓では先行して

2千キロワットの小規模の開発がS社により進んでいる。発電能力が1万キロワット未満の設備であれば国の規制の対象にならないため、2〜3年程度で建設することが可能で、当初は2015年の稼働を目指して建設を進めていた。

## 地下資源開発に伴うリスク

可能とした。

私どもの地域も有力な

候補となり、中部電力の子会社S社が2千キロワットの地熱発電所を設置するということで2013年秋から、中の湯下流域で調査が始まった。

国策である以上、個人

的にはどうあれ地区としては受け入れざるを得

日本温泉協会が地熱開

発業者に対する五つの提

案事項「地元(行政や温泉事業者等)の合意」「客観性が担保された相互の情報公開と第三者機関の創設」「過剰採取防止の規制」「継続的かつ

広範囲にわたる環境モニ

タリングの徹底」「被害を受けた温泉と温泉地の

いう結論になり、調査は終了した。

地熱発電は、地域には

独自で電源と温泉を持つ点、行政では税と雇用が増加する点が期待されているが、実際に掘ってみなければ分からないという現実がある。

また、地震や災害の多

いわれわれのような地区

しかし、蒸気が勢いよく

出ているのは最初だけで、すぐに蒸気は止まっ

てしまった。現在新たにもう1本井戸の掘削を行っている。2本目となると費用がかさむため、東芝と共同出資者であり、合併会社まで立ち上げたオリックスが撤退する事態になってしまった。

今後どのようになるか

懸念される。